

星内より駆逐され、至れり若干の重砲指揮する日本軍は用ひて即ち陸軍及び隸迫撃車場を砲撃するの料に供せり露直の右翼たより中を退却するに至る然も之に對する追撃は市線とムチャアンの東北丘陵に存したる豫備隊の射撃とに依りて阻止されたり

此間第一軍は九月一日午前十一時に於て黒莫臺に於て其敵を攻撃せり諸軍の位置今頗る危殆なりと云はざるべからず黒木にして若し更に逃亡ししく壓迫するに成功せんか東方への其退却は最早や之を行ふべからざるに至らん九月一日夕黒木は墨英臺の南仕官屯を攻撃し初めは敗退されたるも後遂に夜間に行ひたる其機銃に依りて成功せり

此時韓國軍隊は河を越えて匆忙退却し始めたる遼陽市街の夫の防禦軍微つせば或は潰散したる遼陽市街の夫の防禦軍微つせば或は潰散に至りたるやも亦知るべからず九月二日柳曉少將ウクトムスキー公に僅に五隻の戰闘艦、五隻の駆逐艦若しくは水雷艇を率ひ軍團破損したるバヤン、巡洋艦バルラダを留むるに至りたるものなり三隻の駆逐艦また港内にクロバットキンは一時退避の憂を免れ黒木を攻撃せんが爲め河の北方に充分の軍隊を集合したる後仕官屯及び其西方高地全線を回復せりふの損ひ墨木は其増兵を得たるものゝ如し九月二日夜即ち猛烈に攻勢を取り再び仕官屯歸着せり八月十八日に於ける砲艦オトソズニーの喪失、八月廿三日に於ける戦闘艦セヴァアストボールの戦闘力喪失、八月廿四日に於ける又もや駆逐艦の沈没は更に韓國の海軍力を減損するに至れり凡て此等の後の災害はみな沈没水雷の加へたる處なり港口附近には沈没水雷の加へたる處なり港口附近に日本若し潛航艇を所有し居れりとの事ならず我等は近日の損失につきて其原因を之に歸せんふどを欲するものなり

陣地を獲得せり之が右翼を攻撃したるオルロ
ツフ將軍の縱隊亦大損害を以て撤退する露軍
は仕官屯より驅逐されて其後衛の守持したる
セヤンサン屯、ターツアンツア兩村中間の陣
地に退却し戰闘中大損害を受けたる第一西北
利亞軍團は西方に驅逐され迂回して漸く煙臺
に達するを得たり
斯く各方面に於て壓迫され更に一時間逗留せば
破壊既に至らんとするに及びクロバトキンは
形勢の要求する唯一の命令を傳へ即ち總退却
却の命是れたり九月三日午後彼は苦難を経て
至るまで其南方軍を防禦し其上に於て倉庫橋
梁を焼き退却せり
追撃の事情は尙ほ未だ發表さるゝに至らず思
ふに非常の銳氣を以て行はれたるみどならぬ
必ず世を驚かすに足るもの少からざるべし既
に砲門の大損失ありたりとの風説あり又奉天
及八渾河鐵道に向けクロバトキンと其先を爭
ひ居れる並行縱隊わりとの報あり退却を妨害
する爲め河船を利用するの準備如何に至りて
は是れ亦未知數に屬す後衛の危殆なるものわ
るは殆ど疑を容べからずクロバトキン既に
煙臺を撤退したりとせば彼は即ち之の其隊に
の外絶えて確實なる報又は公報に接する
どなし近日まで旅順口にありたる米國海軍
從軍武官は佛國新聞記者に對して守備隊の
態に關する概して好望なる意見を傳へたり
云々然れども今探る所に據れば從軍武官
は皆老虎尾の離隔砲臺内に幽閉され戰闘の
態につきては甚少されたるもの頗る乏しくト
は殆ど之を見るを得ざりしものゝ如し
に彼等は八月十四日を以て同地を撤退せり即
ち勸降書のスネッセル將軍に達したる二日曾
なり從つて近接攻撃の準備日本に依りて完備
されたる前なりとすべし其日以後西北正面に
於ける攻撃は銳意を以て行はれたり一切の趨
道は椅子山砲臺の日本手中にあるを稱するに
確持せるは此三陣地あるのみと然れども此說
は攻撃の成功を誇張したるものなるに似たり
縱じや其主要砲攻城砲臺の砲火に依りて一部
は再び其體に踏襲さるべし數名の避難民は釋
すらく黃金山、白玉山、老鐵山、露軍の尙ほ
於て一致然りとせば千八百九十四年の先例
は再び其體に踏襲さるべし數名の避難民は釋

の平野長井と申す。

○ タイムスの日露
戦争批評 (九十七)

月十八日 明治三
ムスの日露
批評 (九十七)

— 1 —

今盡く明白なるに至れり突の結果は即ち
平洋艦隊より一隻の一等戦闘艦、三隻の巡洋
艦、五隻の駆逐艦若しくは水雷艇を奪ひ並
少將ウクトムスキー公に僅に五隻の戦闘艦、
破損したるバラン、巡洋艦バルラダを留むる
に至りたるものなり三隻の駆逐艦また港内に
歸着せり八月十八日に於ける砲艦オトリーズ
ニ一の喪失、八月廿三日に於ける戦闘艦セヴ
アストボールの戦闘力喪失、八月廿四日に於
ける又もや驅逐艦の沈没は更に露國の海軍力
を減損するに至れり凡て此等その後の災害は
みな沈置水雷の加へたる處なり港口附近に
は沈置水雷周密に投入され居れるものなりと
す日本若し潛航艇を所有し居れりとの事なら
せんふどを欲するものなり
旅順口にありて尙ほ功力を有する少數の艦
軍艦その揚海駆逐隊と共に斯く其活動を繼續す
るは即ち日本砲門の港内を制するふど未だ充

分なるを得ざるの證なりと爲さるべからず
我等は前中連中避難民よりの例の報に接する
を得たり皆攻撃の着々として進歩し居れる
告ぐ然れども我等は右軍艦の行動に關する
の外絶えて確實なる報又は公報に接する
どなし近日まで旅順日に入りたる米國海軍
從軍武官は佛國新聞記者に對して守備隊の
態に關する概して好望なる意見を傳へたり
云ふ然れども今探る所に據れば從軍武官
は皆老虎尾の離隔砲臺内に幽閉され戰闘の
態につきては甚少されたるもの頗る乏しくり
は殆ど之を見るを得ざりしものゝ如し
に彼等は八月十四日を以て同地を撤退せり即
ち勸降書のスチッセル將軍に達したる二日前
なり從つて近接攻撃の準備日本に依りて完成
されたる前なりとすべし其日以後西北正面に
於ける攻撃は銳意を以て行はれたり一切の路
道は椅子山砲臺の日本手中にあるを稱するに
於て一致す然りとせば千八百九十四年の先例
は再び其儘に踏襲さるべし數名の避難民は禪
すらく黃金山、白玉山、老鐵山、露軍の尙ほ
確持せるは此三陣地あるのみと然れども此說
は攻撃の成功を誇張したるものなるに似たり
縱じし其主要砲攻城砲臺の砲火に依りて一部

の平野長井と申す。

するも本防禦線内にある砲臺の多數尙は露國の手中にあるは之を疑はず其攻城戦中に得たるものなると將た野戦中に於て得たるものか。ると間はず一地點の成功は前日に於てよりは今回の状態にありて之を擴充するふと頗る容易ならず近世武器の長射程は防禦軍をして其援護砲臺及び後方砲臺の各部よりして其喪失したる陣地に砲火を注ぐふとを得せしむ今日にありては其奪ひたる陣地を保持するよりは之を奪ふを以て寧ろ容易なりとす防禦軍の有効なる砲一切に對し其標的たる島點にありて之に砲塔を焼造するは遲緩にして且つ高價なる業ならざるべからず。

然れども日本軍若干の進歩を爲したるふと及び露國本防禦線内に於ける砲の一部が伏されたるふとは極まるが如し是れ其行動に於て事情の必要とする至當の順序なり歩兵に依る攻撃の加へらるゝは防禦軍の砲比較的無能なるに至らしむられたる後ならざるべからず一日ごと備隊以其勢を減じ攻圍軍は絶えず増大さるステッセルは我等に稱して曰く旅順日は最後の砲臺にかかる最後の一人に至るまで防守さるべしと最近報に依りて得たる概要感念は日本に於ける自信深き人々の之を豫

墨内より驅逐され、より至れり若干の重砲捕獲
さる日本軍は用ひて即ち陸軍及び鐵道機車場
を砲撃するの料に併せり露軍の右翼れより中
央部隊全部は今遂に大混亂を以て河線の方向
に退却するに至る然るも之に對する追撃は市
線とムチニアンの東北丘陵に存したる豫備隊
の射撃と依りて阻止されたり
此間第一軍は九月一日午前十一時に於て黒莫
臺に於て其敵を攻撃せり露軍の位置今頗る危
殆なりと云はざるべからず黒木にして若し更
に其だしく壓迫するに成功せんか東方への其
退却は最早や之を行ふべからざるに至らん
九月一日夕黒木は羅英臺の南仕官屯を攻撃し
初めは敗退されたるも後遂に奮闘に行ひたる
其勢鋭に依りて成功せり
此時露國軍隊は河を越えて匆忙退却し始めた
り南方に於ける二箇軍の主力を三日間阻止し
たる遼陽市街の夫の防禦軍微つせば或は潰散
に至りたるやも亦知るべからず九月二日撫順
クロバトキンは一時退撃の憂を免れ黒木を攻
撃せんが爲め河の北方に充分の軍隊を集合し
苦戦の後仕官屯及び其西方高地全線を回復せ
りみの頃ひ黒木は其増兵を得たるものゝ如し
九月二日夜即ち猛烈に攻勢を取り再び仕官屯

陣地を獲得せり之が右翼を攻撃したるオルロ
ツフ將軍の縱隊亦大損害を以て撤退する露軍
は仕官屯より驅逐され其後衛の守持したる
セヤンサン屯、シーツアンツア兩村中間の陣
地に退却し戰闘中大損害を受けたる第一西北
利亞軍團は西方に驅逐され迂回して漸く煙臺
に達するを得たり
斯く各方面に於て壓迫され更に一時間逗留せば
破壊既に至らんとするに及びクロバトキンは
形勢の要求する唯一の命令を傳へ即ち總退
却の命是れたり九月三日午後彼は苦難を経て
煙臺より炭坑への支線に退却し茲に少なくも
其敗殘軍隊の一部を拾集するを得たり此間彼
の爲めに多く奉じたる其後衛は九月四日朝に
至るまで其南方軍を防禦し其上に於て倉庫橋
梁を焼き退却せり

合するを待ち受けざるものなり
追撃軍既に發せられたるに於てはクロバード
ン亦未だ決して其危機を脱し得たるものなり
とすべからず彼の諸隊中多數騎隊の其兵力を
半減したるものあり日本の騎隊に至りては既
に其補充を受けたり或は良好なる精良にあら
んか
頗る有り得べからざる事なりと雖もリチヴィ
ツチ將軍急行列車に依りて或は浦賀駅より
之に駆け付くるを得べし彼は其官階に相称す
る四萬の兵を有せず假しや有したりとする
機に及びて着し爲めに何等かの用を辨せんと
するは蓋し難からん我等は即ち奉天の守備隊
れよび鐵嶺を防守し之に其遁走兵を收容せん
として鐵道に依り南下し若れる軍隊を見る
豫期せざるべからず然れども人馬の最後の一
忽に至るまで之を追驅するを以て又日本の事
務とする
我等は落軍果して其機敏にして且筋力の勝
より免るゝを得るものなるや之を見んらむと
欲するものなり
(六日所載)

居らずと云ふにあり

豫てより述べたるが如く東洋提督は八月十日彼に抗したる六隻の露國戰闘艦中その五隻を以て大損害を負へりと思考せりセヴァストボ

ル或ひは其損害の最小なりしものならん然るも今は再びの良艦よりも更に不良なる状態に陥りたるふと明なり同艦は即ち八月二十三日沈没水雷に接觸し甚だしく右舷に傾斜し其舳部に浸水せる僅曳かれて港内に入れりと云ふ

ウクトムスキイ公その日附なき報告中に於て旅順口より押して曰く其諸艦は修繕中なりと且つ曰く其旗艦レスヴィエットに於ては砲

船體、電氣機械著しく破損したりと露國掃海艇の活動は重ねて進歩を試みんとするものなりと東京に於て解釋さる一艦たりど

勅命動かすべからざるものなるが如くウイックフト亦其最後の信號に於て之が特別の注意を其艦隊に促したるを以て此事あるひは然るべきなり然れど一切の事情に見て何等の目的とするものなるに似たり八月十八日ウラルはグイーゴ(西班牙)に於て其石炭の積入を行ひたるもドンに至りては近づき其所在の報せられたるのみなし他三隻の變造獨逸郵船はラース・パールマースにありとの報あり同地に於て八月二十四日又は二十五日獨逸汽船フアレングより皆其石炭の積入を行へりと云ふアレシアは我がカーナフ通商員の去る土曜日(二十七日)を以て報じたるが如く無煙船用石炭二千六百噸を搭載し八月十日ラース・パームースに向けベーリーを出發したるのみなり同日後に於て獨逸商人は露國海軍の爲め更に六萬乃至八萬噸の石炭を買入れたりアメリカ會社郵船型の補助巡洋艦六隻八月廿四日ヨルセル(子抹)を通航せり疑ひもなく其僚船として同一の任務に服せんとするものならん總理大臣は説明して曰く法律當局者及び政府の意見に依るに商船は中立國に於て之を如何なる國の政府にも賣渡すふと得べし之を買受けたる政府は又その都合に從ひ其船舶を巡洋艦に改造するふと得べきなりと此意見は其賣られたる船舶の用途軍用にあるふと證明

及び其僚船にしてドンと改名されたるもの、此二隻はシプロートルタ(海峡)の西方に其位置を取り地中海の西口を封鎖して英國汽船に停船を命ずるの業を始めり一旦英國船をのみ其目的通りに歸還するを許さりし露國皇帝の勅命動かすべからざるものなるが如くウイックフト亦其最後の信號に於て之が特別の注

とすべし

(二十九日所附未完)

露國の通商妨害

(九十八)

(八月二十九日所附つき)

戦争批評

(九十九)

の際に當てボールチック艦隊は巡航の目的を以て海に發したるが如し東方への此艦隊の巡航もし果して事實となるに至れば世界の各部は之に其範囲の注意を傾け来るべきなり

此艦隊に加ふるは若干の通商侵害船また露國の巡航もし果して事實となるに至れば世界の巡航もせり此通商侵害船の巡航に關して餘

港灣を警戒し此通商侵害船の巡航に關して餘

各部は之に其範囲の注意を傾け来るべきなり此艦隊に加ふるは若干の通商侵害船また露國の巡航もし果して事實となるに至れば世界の巡航もせり此通商侵害船の巡航に關して餘

港灣を警戒し此通商侵害船の巡航に關して餘